



# 令和7年度地域づくり加速化事業 市町村伴走支援を受けて

---

北海道 比布町 保健福祉課

# 目次

---

1. 町の概要
2. エントリーの背景
3. 支援とその結果
4. 今後の取り組み



# 1. 町の概要

比布町は…

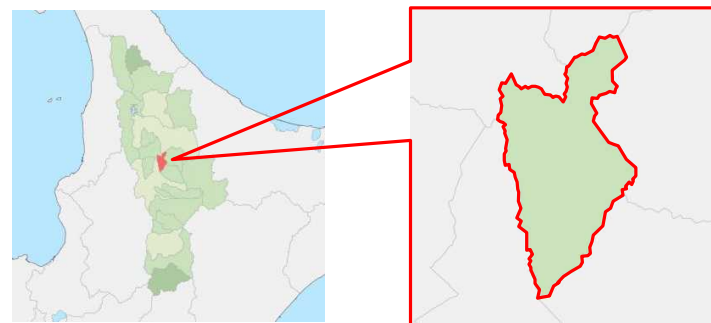
人口：3,312人（R8/1/1現在）

高齢者人口：1,433人

高齢化率：43.27%

要介護認定者数：317人

要介護認定率：22.12%



# 1. 町の概要

「いちご」と「スキー」の町



# 1. 町の概要

---

「世界で1番大雪山がきれいに見える」町



# 1. 町の概要

ピップエレキバンで有名な、ピップ(株)との連携



## 2. エントリーの背景

---

比布町の協議体：生活助け合い協議会「ぴっぷの和」

H25：住民参加型意見交換会(道事業)

H26：ぴっぷケアカフェ

H27：生活助け合い研究会

H28：生活助け合い協議会「ぴっぷの和」発足

H29：比布町社会福祉協議会へ「ぴっぷの和」委託

## 2. エントリーの背景

---

「ぴっぷの和」の活動

- ・ 地域に出向き、町民の生の声を聞く
- ・ サロン、老人クラブなどの町内の活動に出向き、体験する
- ・ 町の将来、目指す方向を話し合う
- ・ 今の事業等を再点検し、さらに必要なサービスを検討する

→ 「安心メモ帳」の考案・実用化(H29)、  
高齢者の活躍・交流の居場所「三平サロン」の開催(H30)

## 2. エントリーの背景

**安心メモ帳**

ポケットに葉の情報と本人情報の用紙を入れてください

緊急連絡先		本人情報	
氏名	住所	氏名	住所
電話番号	住所	生年月日	住所
住所		性別	住所
		年齢	住所

**※必ず冷蔵庫に貼ってください**

**救急車の呼び方**

1. 比布消防署 (85-2224) に電話
2. 救急と伝える
3. 住所を伝える
4. 具合の悪い人の症状を伝える
5. 具合の悪い人の年齢を伝える
6. 通報者の名前と電話番号を伝える

新しい用紙が欲しい方は社会福祉協議会(85-2943)へ連絡ください



## 2. エントリーの背景

---

しかし…

町から社会福祉協議会へ完全事業移行(R元年度)後、  
事業運営が停滞。



また、

コロナウイルス感染症の流行(R 2年度以降)もあり、  
「地域コミュニティやつながり」も衰退。



さらに、

社会福祉協議会から「受託継続不可」の打診(R 5年度)あり。

## 2. エントリーの背景

---

令和6年度、新体制でスタート(さわやかインストラクターが代表を務める町内事業所で事業の受託希望あり → 委託開始)したが…

- ・ 引継ぎ不十分
- ・ 参加メンバーの入れ替わり
- ・ 町の事業担当者の異動

等もあり、S Cが「うまく動けていない状態」が継続したため、町とS Cで話し合いの場を持ちながら事業を進める。

## 2. エントリーの背景

---

エントリー前に考えていた課題

活動意識の醸成・啓発

地域住民や活動組織との  
関わり合いの強化

訪問活動の形づくり

担い手発掘の基盤づくり

地域の現状・課題分析

地域住民等を巻き込む  
アプローチ方法

etc ...

# 3. 支援とその結果

---

## 第1回目支援（R 7/9/1 1）

- ・ 「最終的に何ができればOKなのか」という部分がない
- ロードマップがない(=町として、漠然としたビジョンはあっても、それを「見える化」できていない)
- ⇒ SCとしても「どこを目指せばよいのか」分からないという状態になっているため、「目標(=ゴールの設定)」が必要

# 3. 支援とその結果

---

## SCの受け持つ役割

地域のアセスメントを踏まえたうえで…

- ①生活支援の担い手育成 → 各活動団体の機能強化
  - ②サービスの開発 → ①から派生する活動把握
  - ③関係者とのネットワーク化 → 各団体取りまとめ機関との連携
- +
- ④ニーズと資源のマッチング → 困り事・対象者への個別対応

# 3. 支援とその結果

---

町内資源として「把握されていない既存のもの」の把握

⇒福祉的視点以外のコミュニティ等の活用につなげる

- ・「地域の人との集まり」

例：稲作が町基幹産業 → 水利組合のような農業的な人の寄り合い 等

- ・「個人ができること」

例：以前していた仕事の技能、趣味・特技 等



# 3. 支援とその結果

---

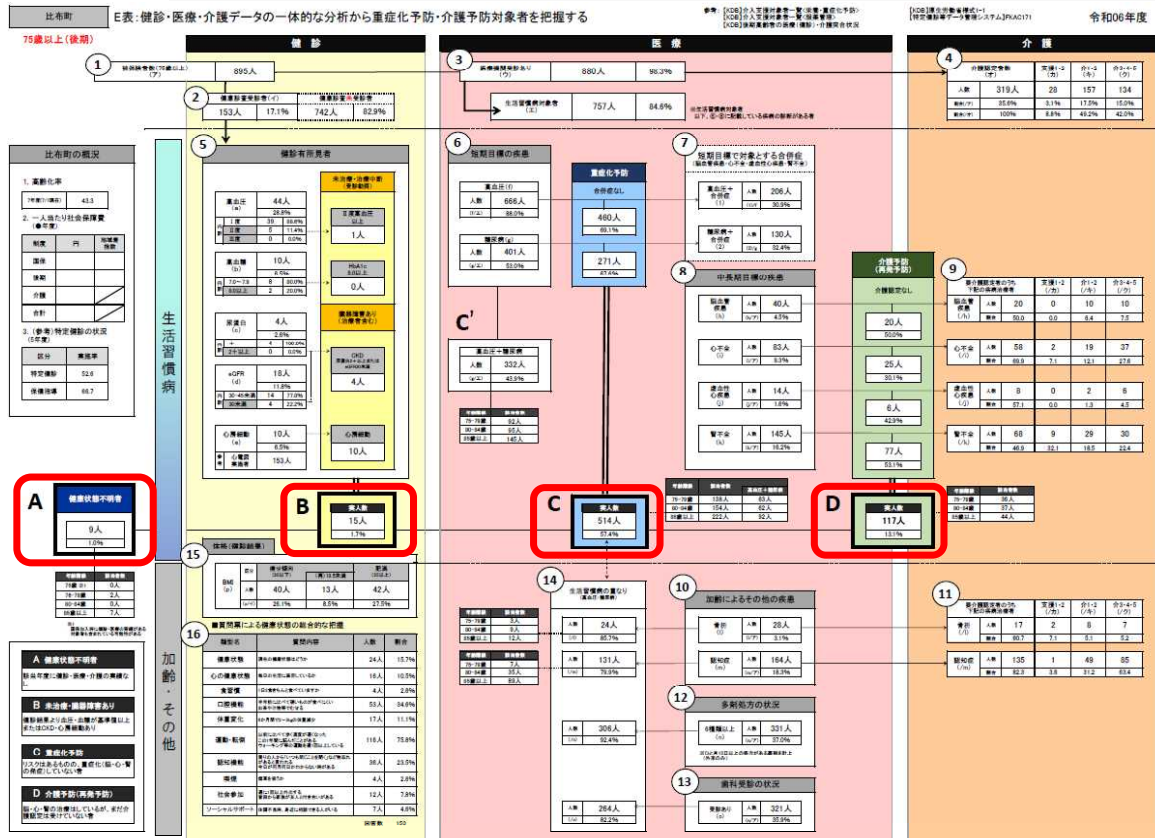
## 第2回目支援（R 7/1 1/1 2）

- ・「マッチングを行う」ためには…

→「誰の」「どのような状態を」「何と」マッチングさせるかの  
具体化が必要

⇒具体的なイメージづくり、ピンポイントでの対象者の炙り出し  
のため、**K D BのE表の数値の分析**を行い、**高齢者の実態把握**  
を行う

# 3. 支援とその結果



「どの人」が「どんな状態」であるかの把握が可能

+

例えば、A~Dに「どの機関」が「どのように」アプローチしているのかが把握できれば…

↓

アプローチすべき対象者ははっきりする

=あとは、「何と」マッチングさせるのかを考えればよい

# 3. 支援とその結果

---

現状の課題として

- ・ 社会参加機会への高齢者の参加状況等が不明

→訪問による聞き取りやデータの結びつけにより**整理**する

- ・ 受け皿となる体制の把握ができていない

→町の資源マッピング・可視化(「どんな人」に「どの機関」の「何」をマッチング可能なかの**見える化**)を行う

# 3. 支援とその結果

---

## 第3回目支援（R7/12/24）

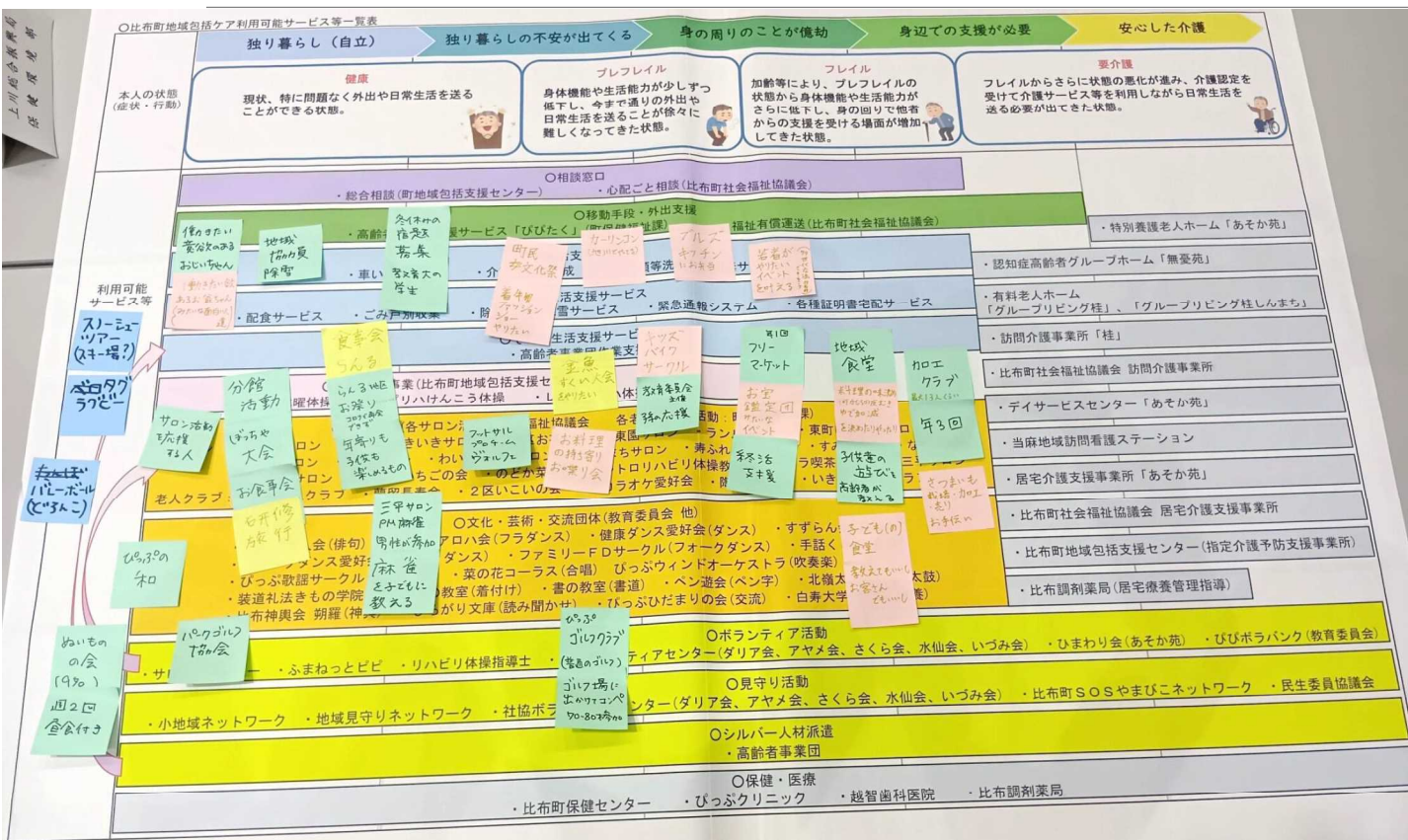
- ・ S C 及び協議体参加メンバーに、生活支援体制整備事業での役割等と地域にどんな受け皿があるのかを理解してもらう必要がある
- 講演と「町内サービス・資源」を可視化した図を用いたグループワーク
- ⇒仮作成した「町内資源図」をベースに、「現在行われているもの」、「過去に行っていたもの」、「今後あったらよいと思うもの」についての意見交換

# 3. 支援とその結果

○比布町地域包括ケア利用可能サービス等一覧表

	独り暮らし（自立）	独り暮らしの不安が出てくる	身の周りのことが億劫	身近での支援が必要	安心した介護	
本人の状態 (症状・行動)	<p><b>健康</b></p> <p>現状、特に問題なく外出や日常生活を送ることができる状態。</p> 	<p><b>プレフレイル</b></p> <p>身体機能や生活能力が少しずつ低下し、今まで通りの外出や日常生活を送ることが徐々に難しくなってきた状態。</p> 	<p><b>フレイル</b></p> <p>加齢等により、プレフレイルの状態から身体機能や生活能力がさらに低下し、身の回りで他者からの支援を受ける場面が増加してきた状態。</p> 	<p><b>要介護</b></p> <p>フレイルからさらに状態の悪化が進み、介護認定を受けて介護サービス等を利用しながら日常生活を送る必要が出てきた状態。</p> 		
利用可能サービス等	<p>○相談窓口</p> <p>・総合相談(町地域包括支援センター) ・心配ごと相談(比布町社会福祉協議会)</p>					
	<p>○移动手段・外出支援</p> <p>・高齢者等移動支援サービス「びびたく」(町保健福祉課) ・福祉有償運送(比布町社会福祉協議会)</p>				・特別養護老人ホーム「あそか苑」	
	<p>○社協生活支援サービス</p> <p>・車いす無償貸与 ・介護機器等助成 ・寝具類等洗濯乾燥消毒サービス</p>				・認知症高齢者グループホーム「無憂苑」	
	<p>○町生活支援サービス</p> <p>・配食サービス ・ごみ戸別収集 ・除雪、門口除雪サービス ・緊急通報システム ・各種証明書宅配サービス</p>				・有料老人ホーム「グループリビング桂」、「グループリビング桂しんまち」	
	<p>○その他生活支援サービス</p> <p>・高齢者事業団作業支援</p>				・訪問介護事業所「桂」	
	<p>○介護予防事業(比布町地域包括支援センター)</p> <p>・木曜体操 ・ビビリハけんこう体操 ・レッツ・リハビリ</p>				・比布町社会福祉協議会 訪問介護事業所	
	<p>○通いの場(各サロン活動: 社会福祉協議会 各老人クラブ活動: 町保健福祉課)</p> <p>サロン : ・2区サロン ・第5区いきいきサロン ・8区お茶の会 ・東園サロン ・ランルサロン ・東町いきいきサロン ・西町サロン ・南町サロン ・わいわい中町サロン ・しんまちサロン ・寿ふれあいサロン ・浄慶寺サロン ・サロンいちごの会 ・すみれの会 ・なごみの会 ・のどか葉食堂 ・レトロリハビリ体操教室 ・三平サロン 老人クラブ: ・福寿老人クラブ ・蘭留長寿会 ・2区いきいきの会 ・寿カラオケ愛好会 ・陶芸愛好会 ・いきいき体操クラブ</p>				・デイサービスセンター「あそか苑」 ・当麻地域訪問看護ステーション ・居宅介護支援事業所「あそか苑」	
	<p>○文化・芸術・交流団体(教育委員会 他)</p> <p>・郷土俳句人会(俳句) ・比布ホアロハ会(フラダンス) ・健康ダンス愛好会(ダンス) ・すずらん会(舞踊) ・フォークダンス愛好会(フォークダンス) ・ファミリーFDサークル(フォークダンス) ・手話くらぶ(手話) ・びっふ歌謡サークル(カラオケ) ・葉の花コーラス(合唱) ・びっふウィンドオーケストラ(吹奏楽) ・装道礼法きもの学院 谷口きもの教室(着付け) ・書の教室(書道) ・ベン道会(ペン字) ・北嶺太鼓保存会(太鼓) ・比布神輿会 朝羅(神輿) ・ひろがり文庫(読み聞かせ) ・びっふひだまりの会(交流) ・白寿大学(交流・教養)</p>				・比布町社会福祉協議会 居宅介護支援事業所 ・比布町地域包括支援センター(指定介護予防支援事業所) ・比布調剤薬局(居宅療養管理指導)	
	<p>○ボランティア活動</p> <p>・サロンサポーター ・ふまねっとビビ ・リハビリ体操指導士 ・社協ボランティアセンター(ダリア会、アヤマ会、さくら会、水仙会、いづみ会) ・ひまわり会(あそか苑) ・びびボラバンク(教育委員会)</p>					
	<p>○見守り活動</p> <p>・小地域ネットワーク ・地域見守りネットワーク ・社協ボランティアセンター(ダリア会、アヤマ会、さくら会、水仙会、いづみ会) ・比布町SOSやまびこネットワーク ・民生委員協議会</p>					
<p>○シルバー人材派遣</p> <p>・高齢者事業団</p>						
<p>○保健・医療</p> <p>・比布町保健センター ・びっぶクリニック ・越智歯科医院 ・比布調剤薬局</p>						

# 3. 支援とその結果



- ・ 集まることができる場
  - ・ 活用可能な人材
  - ・ 過去にあった行事
- ↓
- やってみしたい/連想したもの
- ・ 縫物ファッションショー
  - ・ 終活支援(物品処分/回収)  
+フリーマーケット(再活用)
  - ・ etc...

## 3. 支援とその結果

---

- 「興味があるもの」は色々とあり、今回のように「出てきたもの」を「足し算」していくこともありかも？

→様々な要素が加わり、何か一部でも興味を引く部分があれば、そこから社会参加へつながる可能性がある

- 「昔はしていたが、今はしていない or できていない」ことに対してクローズアップするのもよいかも？

→資源がなくなった原因を分析し、原因の解消 or 代替方法で実行可能か検討することで、資源の復活 or 再現できる可能性がある

## 4. 今後の取り組み

---

- ・ 町の資源の可視化、分析をさらに進め、「地域がやりたいこと」を考えていくためのベース作り
- サロンや地域の人との集まりに対し、第3回目支援で行ったようなグループワークを実施
  
- ・ 地域包括支援センターでのデータ分析とアプローチ
- K D Bのデータ等からアプローチ対象を分析・抽出し、対象者への訪問や社会参加を促していく

## 4. 今後の取り組み

---

- ・地域づくりにおける意思統一を図る場の形成・運営

→町と町内社会福祉法人により、将来的地域包括ケアシステムを構築する場として、「町地域介護・福祉連携推進協議会」を発足

- ・困り事や社会参加機会へのマッチングのためのベース作り

→独居高齢者に対する「支援・ニーズ把握調査」を実施・分析しつつ、社会福祉協議会等と共に、地域の困り事と解決策のマッチングができるような体制づくりを行う

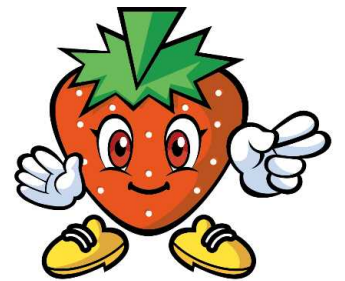
# 最後に…

---

支援チーム・事務局の皆さま

この事業に参加することにより「根本的に分かっていなかったこと」を知ることができ、また「これからどうしていったらよいか」などのアドバイスを丁寧にしていただけたことで「今後の事業内容の整理」ができたほか、多くの気づきを得ることができました。

ご支援いただき、本当にありがとうございました。



令和7年度（2025年度）

地域づくり加速化事業

伴走支援を受けて

～誰かと気にかけてつながりづくりに向けて～

北海道登別市  
保健福祉部健康長寿グループ



# 登別市の概要



人口： 42,727人 (令和7年12月31日現在)  
65歳以上人口： 16,460人 (高齢化率38.5%)  
要支援・要介護認定者数： 3,479人 (認定率21.1%)  
日常生活圏域： 3圏域  
地域包括支援センター： 3か所 (委託)

## 地域づくり加速化事業にエントリーした背景

▼本市の生活支援体制整備事業は、平成30年度に社会福祉協議会へ委託し実施していたが、翌年度以降の委託内容等について折り合いがつかず、平成31年度以降は市の直営として実施。

▼しかし、新型コロナウイルスの影響や、5類への移行後も事業において目指すべき方向性の確立や具体的な取組ができず、効果的な事業の展開ができていない状況。

▼状況を打開すべく、令和6年度に協議体会議として地域包括支援センター、社会福祉協議会、連合町内会、民生委員児童委員協議会と、地域の支え合い体制の仕組みづくりについて協議を行ったが、事業の進め方等において関係者間で規範的統合を図ることができなかった。

▼地域づくり加速化事業において、外部のアドバイザーから支援を受け、まずは本市の生活支援体制整備事業において目指すべき方向性の確立と、関係者間での規範的統合を図る必要があると考え、エントリー。



# 1回目現地支援(令和7年9月8日)

**AM:**「社協の取組、取組の中で感じている課題、市や関係機関とどのような連携が必要とを感じるか」

**PM:**「住民が住みやすい町とはどんな町か考えよう!(住民の困りごと、そのために必要な取組、生活支援体制整備事業をどう活用するか)」



退職前に地域貢献の必要性を伝え、地域の中で顔見知りの関係構築が必要では?



車を手放せない高齢者も多い。サービスDなどの移動支援が必要では?



## 1回目現地支援後の気づき ～ 1.5mtg (令和7年11月17日)

▼社協が取り組んでいる多くの部分で、生活支援体制整備事業として取り組むべきものが存在していた。

▼社協の取組を市が応援することで、現在の取組がさらに加速する可能性があると感じた。

▼社協や包括と規範的統合を図るためには、地域包括ケアシステムのグランドデザインや生活支援体制整備事業のロードマップなどを、まずは市が示し、それを基に話し合いを重ねる必要がある。



▼帳票2の中で、包括や社協から「話し合いの場を継続して持つ必要がある」と感想が書かれていた。

▼そのため、2回目・3回目支援で話し合いの基礎になるようなものを作りたい。

▼ただ、グランドデザインは大きすぎるため、生活支援体制整備事業に絞ったロジックモデルはどうか？

▼加速化事業を通してロジックモデルを作成・共有し、次年度以降も継続して話し合いの場を作っていければ、事業を前進させることができるのではないかな。



# 2回目現地支援(令和7年12月8日)



中間アウトカム

- ・住民が健康管理することが出来る
- ・住民が気にかけてくれる人がいる
- ・相談できる人がいる
- ・住民が楽しみを持つ生活ができている
- ・住民が望む場所で生活することができる
- ・住民が交流・社会参加することができる

最終アウトカム

- ・誰もが、誰かと気にかけてくれる人がいる
- ・自分が望む場所に住んでいる
- ・自分らしい生活が続けられる

10

最終アウトカム

(グループで作業)  
手元にある模造紙を縦に4つの枠ができるように折ってください。

登別市素案の最終アウトカムに記載している内容を模造紙の一番右に書いてください。

最終アウトカムの下に共有した個人付箋を貼ってください。  
最終アウトカムが、皆さんが75歳になったときの状況のことを語っていますか？

- ・もっとこういう案が良いのではないかと
- ・もっと具体的な皆が共通認識できる言葉にしよう！等

意見交換してブラッシュアップしましょう。

5/11

## 2回目支援でできたこと～残りの期間で解決に向けた具体的な取り組み

▼それぞれが自分ごととして、最終アウトカム（高齢になったらどうありたいか）を具体的に考えることができた。

▼共通認識となるよう言語化して、ロジックモデルの最終アウトカムを決めたというプロセスを踏むことができた。

▼ロジックモデルの作成を通して目指すべき姿を確認し合うこと、目線合わせの方法を実践することができた



▼2.5mtgまでに包括、社協とロジックモデルの初期アウトカムを協議して作成する。

▼3回目支援日までに、個別施策について市で検討して作成する。包括・社協にもそれぞれの事業や取組について、当てはまるものを検討してもらう。

▼3回目支援において、ロジックモデルの完成を目指すとともに、次年度以降、どのような役割分担のもとで、具体的にどう活動していけるかの合意形成を図ることを目指す。



# 2. 25mtg (令和7年12月17日)

▼3回目支援において、ロジックモデルの完成を目指すために、市・包括・社協の3者だけで初期アウトカムを協議

▼その後、市において初期アウトカムを達成するための、個別施策(各機関別)の下書きを実施



① 課題	② 目的	③ 目標	④ 成果
<p>【課題】 生活困窮者支援</p> <p>【目的】 生活困窮者支援</p> <p>【効果】 生活困窮者支援</p>	<p>【目的】 生活困窮者支援</p> <p>【効果】 生活困窮者支援</p>	<p>・住民が気にかける人がいて、関係性ができる</p>	<p>・誰かと気にかけるつながりを持ちながら、自分が住む場所で、自分らしい生活が続けられる</p>
<p>【課題】 生活困窮者支援</p> <p>【目的】 生活困窮者支援</p> <p>【効果】 生活困窮者支援</p>	<p>【目的】 生活困窮者支援</p> <p>【効果】 生活困窮者支援</p>	<p>・住民が困った時に専門機関に相談することができる</p>	
<p>【課題】 生活困窮者支援</p> <p>【目的】 生活困窮者支援</p> <p>【効果】 生活困窮者支援</p>	<p>【目的】 生活困窮者支援</p> <p>【効果】 生活困窮者支援</p>	<p>・住民が住む場所を選択できる</p>	
<p>【課題】 生活困窮者支援</p> <p>【目的】 生活困窮者支援</p> <p>【効果】 生活困窮者支援</p>	<p>【目的】 生活困窮者支援</p> <p>【効果】 生活困窮者支援</p>	<p>・住民が趣味や楽しみを持って生活できる</p>	
<p>【課題】 生活困窮者支援</p> <p>【目的】 生活困窮者支援</p> <p>【効果】 生活困窮者支援</p>	<p>【目的】 生活困窮者支援</p> <p>【効果】 生活困窮者支援</p>	<p>・住民が交流や社会参加ができる</p>	
<p>【課題】 生活困窮者支援</p> <p>【目的】 生活困窮者支援</p> <p>【効果】 生活困窮者支援</p>	<p>【目的】 生活困窮者支援</p> <p>【効果】 生活困窮者支援</p>	<p>・住民が(自身の)健康管理をすることができる</p>	



7/11



# 3回目現地支援(令和8年1月26日⇒2月12日)



**【行政】(生活支援体制整備事業)**  
 ①情報共有の場の設置  
 行政が、包括・社協と定期的に情報共有する場を設定する  
 行政が、包括・社協と定期的に情報共有する場を設定する  
 ②第2層SCの設置  
 行政が委託または直営で第2層SCを設置する  
 ③好事例の発信  
 行政が広報等を通じて住民に気にかける関係づくり(他事業)

④地域介護予防活動支援事業  
 行政が包括・社協やボランティア、NPO等と連携して実施する

**【包括】**  
 ⑤ネットワーク構築活動

**【社協】**  
 ⑥小地域ネットワーク活動

⑦リーフレットの周知  
 行政がケアバス等のリーフレットを町内回覧や広報、健診受診券に同封するなどして周知を図る

⑧専門機関や民生委員との情報共有  
 行政が他事業を含む会議や行事等で関わる専門機関の職員や民生委員と積極的に情報共有を図る

⑨リーフレットの周知  
 行政がケアバス等のリーフレットを町内回覧や広報、健診受診券に同封するなどして周知を図る

**D 個別施策**

1. 行政や専門機関が、住民に相談しやすいように、行政や専門機関とうかがうことができる

2. 行政や専門機関が、住民に相談しやすいように、行政や専門機関とうかがうことができる

取組時期				
4~6	7~9	10~12	1~3	R9年度以降

## 3回目現地支援後の気づき

▼包括支援センターと社会福祉協議会のそれぞれの活動の隙間を埋めてくれるような第2層SCの早期設置が必要

▼市民への情報提供においても、ただ闇雲に行うのではなく、生活支援体制整備事業をどう進めたいかを考えて、戦略的に行っていく必要がある

▼包括や社協は市の担当者の人事異動により、それまで協議していたことが継続されないなどの不満を感じつつも、地域の住民が暮らしやすくなるためにという想いで、それぞれの事業や活動、市への協力を行ってきた



## 伴走支援を受けて～今後に向けて

▼最終アウトカムにより、本市の生活支援体制整備事業において目指すべき方向性が確立できた

▼ロジックモデルの作成を通して、地域の関係者（市・包括・社協）と目線合わせを行うことができた

▼加速化事業を通じて、包括支援センターと社会福祉協議会の本音を聴くことができた。

▼情報共有の場の継続  
（四半期ごとのロジックモデルの進捗確認）

▼庁内関係部署や地域の関係者を交えた情報共有や課題の解決に向けた協議の場の設置

▼成功体験の積み重ね

▼市の考えや進捗状況の共有



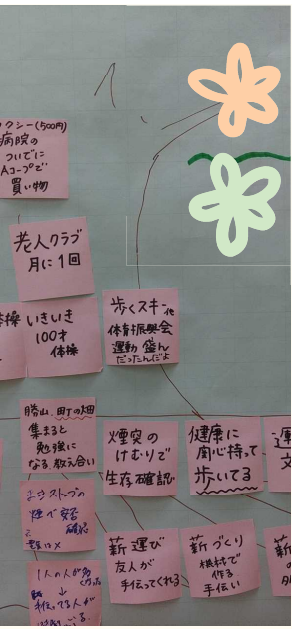
## 支援チームの皆さまへ

▼支援チームの皆さまにおかれましては、ご多忙の中、本市の生活支援体制整備事業に対して様々なご助言をいただき心より感謝申し上げます。

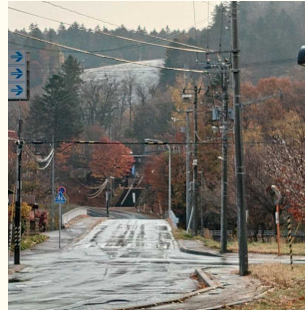
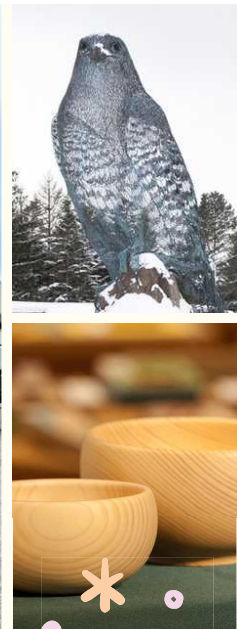
▼特に現地支援においては、本事業において最も重要な関係機関である包括支援センターと社会福祉協議会からの本音を聞くことができ、本市の体制の問題点や今後どのように改善し、事業を進めていくべきかのヒントを得られたと感じております。

▼この加速化事業でご支援していただいた時間が無駄なものとならないよう、できることから取り組んでまいりたいと考えております。今後も研修会等を通じてご支援をいただけたら幸いです。1年間、大変お世話になりました。





# 令和7年度 地域づくり 加速化事業



置戸町地域福祉センター  
包括支援係 永井 真由子





人と、木と、おけと

# 北海道置戸町 の紹介

ハルニレと朝日

令和7年度地域づくり加速化事業

<http://www.town.oketo.hokkaido.jp>



人口 2,458人

高齢化率 44.7%

令和8年1月31日現在

北海道の東部、オホーツク振興局管内の南西部に位置し、北見市、訓子府町、陸別町、足寄町、上士幌町に隣接する町  
気候は夏冬、昼夜の寒暖差が大きく積雪量が少ない気候

総面積の8割以上が森林

主な産業：林業、農業を中心とした第一次産業

町の推し：木工工芸「オケクラフト」、  
人力で丸太をひく「人間ばん馬」

ご当地キャラクター  
おけばんばくん





# 社会教育の町おけと

「まちづくりは人づくり」

公民館がまちづくりの中心

市街地ほか  
3地区に公民館

3地区(境野、秋田、勝山)  
の公民館にも主事配置

各地区ごとに特色のある行事、  
イベントを開催

# イベント 盛り沢山

盆おどりは4地区で開催

収穫祭、人間ばん馬、  
七夕祭り、子ども冬まつり  
等々



全国唯一の **福祉科** 単置校

**OKETO** *High School*

2026年度 新入学生募集

えがけ、みらい。



全国唯一の

福祉科単置校

置戸高校



絶賛  
入学生募集中



## 置戸町立図書館

かつて住民一人あたりの貸し出し数日本一

**本を読まなくても来ていい図書館**

**飲食OK・日によって託児あり  
おしゃべりしてもいい場所  
運動教室、演奏会、座談会等々開催**



## 生活支援コーディネーターである自分に対する悩み

- ・町直管包括の生活支援コーディネーター1名  
地域包括支援センター(社会福祉士)は兼務、  
中途採用の一般事務職。
- ・講演会のような事業がメイン
- ・評価指標→講演会の開催数。自分でやって自分で評価
- ・正式な協議体は一つ。形式的なもの。
- ・一から自分が作り上げたものはない。
- ・他の仕事に比べて後回しになりがち
- ・地域の声を聴いているが聞きっぱなし?
- ・移住者、子育て中のお母さんという立場での活動をこの先も続けていいのか
- ・この先の展開は?多世代?

## 町のいいところを再確認したい

- ・地域全体の自己肯定感を高めたい。
- ・高齢者から子育て世代、子どもといった多世代での地域のつながりを広めたい。

## 地域に対する悩み

- ・地域の課題が住民の自分ごとにならず「困ったら町がどうにかしてくれる」「誰かが解決してくれる」等の考える人が多い
- ・少子高齢化、人口減少が進む町。集まる人数が少なくなったことを恥ずかしい、意味がないと思う傾向にある。
- ・町民のわが町に対する評価の低さ

## 地域との関わり方を考えたい

- ・地域へのアプローチ方法についてアドバイスを頂きたい。
- ・総合事業への展開に生かしたい。

## 役場に対する悩み

- ・まちづくりのビジョン?
- ・地域づくりの取り組み、地域で聞いた声を高齢者福祉以外の他の部署と共有する機会が殆どない。
- ・生活支援体制整備事業に関わるヘルス部門の健康推進係との連携。
- ・なんで福祉が地域づくりをやるの?  
それは社会教育の仕事でしょ。

## 他部署との連携(庁内連携)をしたい

- ・地域包括支援センター業務以外の福祉系の係、福祉系以外の部署と町のことを話す機会を作りたい。

# 一回目現地支援



## 国の事業だよ！福祉系大集合！ 町から職員8名参加



みんなそれぞれ地域に対する思いがある

職種、仕事の内容も違う  
地域をみる視点も違う

課題もたくさんある

みんなちがってみんないい

けど、どうする置戸町

課題に優先順位を  
つけて下さい。

みんな違う仕事、職種  
だけど同じ目線で地域を見てみよう

住民の話を丸ごときいてみよう！



1. 5  
ミーティング

対象地区は？

置戸町は4地区に分かれていて  
それぞれ特色がある

不満ばかり  
でてくるのでは

大丈夫かな  
もっと入りやすい  
地区があったのでは？

高齢化率50%越え

落ちていく地区

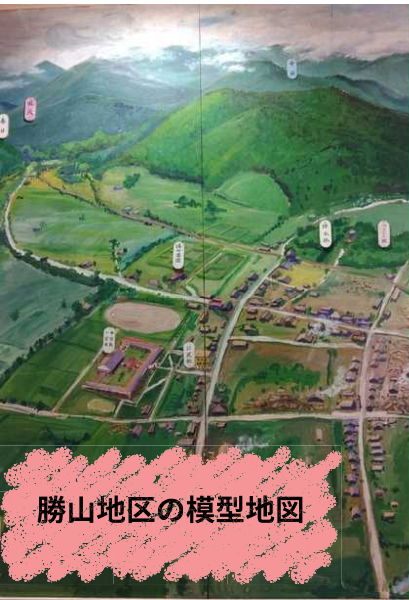
公共バスもなくなる

地域のつながりが強い

4地区の中で1番高齢化率が高く、少子高齢化、  
人口減少がもっとも進む勝山地区を対象に選ぶ

住民が人集めに  
協力してくれる  
かも？





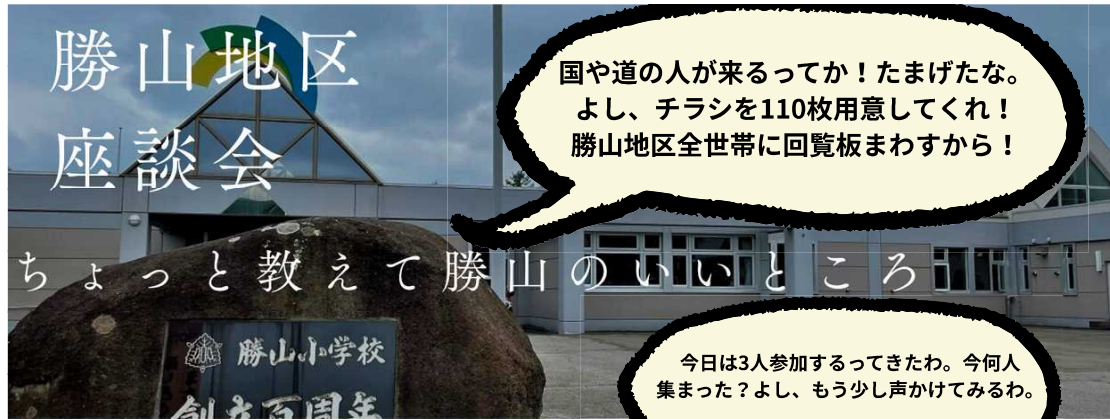
勝山地区の模型地図

# 地域づくり 加速化事業 2回目現地支援

豊戸町地域福祉センター  
2025.12.1



町の各署にある  
勝山地区にいたドイツ人の  
彫刻家の作品



## 勝山地区 座談会

ちょっと教えて勝山のいいところ

国や道の人があるってか！たまげたな。  
よし、チラシを110枚用意してくれ！  
勝山地区全世帯に回覧板まわすから！

今日は3人参加するってきたわ。今何人  
集まった？よし、もう少し声かけてみるわ。

勝山地区住民 11名 参加

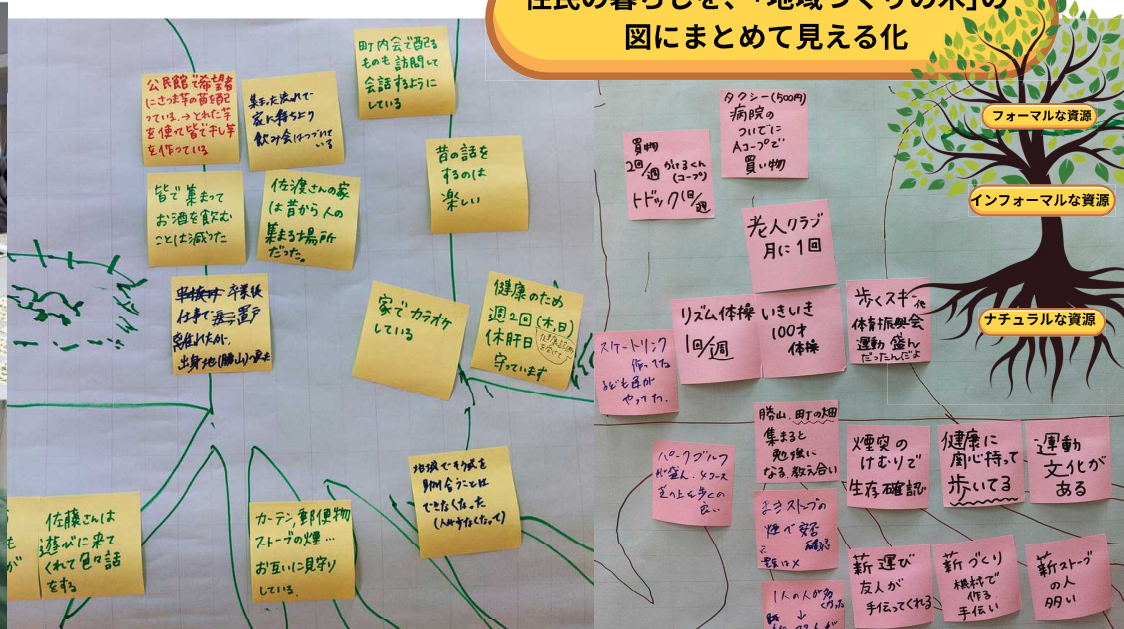
チラシを町内会回覧板で勝山地区全戸101戸配布  
老人クラブ等での声かけ  
個別に電話をして声かけ

澤田さん夫妻、勝山温泉ゆゆう、勝山地区公民館主事の斎藤さん、  
社会教育係、企画係、等々、皆さんご協力ありがとうございました。

## 座談会の様子



### 住民の暮らしを、「地域づくりの木」の 図にまとめて見える化



# 「勝山地区の皆さんの普段の暮らしぶりについて教えてください」 橋本ADと一緒に勝山地区住民の暮らしぶりを分類、意味付け

社会参加  
生きがいづくり

置戸町勝山地区協議会  
2025.12.1

暮らしの工夫

置戸町勝山地区協議会  
2025.12.1

「孫にお小遣いあげたいからね」

趣味のパークゴルフをしながら  
パークゴルフ場のトイレ掃除の  
仕事をしている。

男性の楽しみ

老人クラブ(例会、部活動)、麻雀、  
味噌の会、飲み会、おけと大学、カラオケ、  
パークゴルフ場の掃除、自治会、自治連、  
民生委員協議会、国勢調査、町内会

置戸町の町内会加入率:ほぼ100%

カラオケ

家で(1人、集まる)、  
カラオケ教室、  
老人クラブの部活  
動、他たくさん

飲み会

みんなで集まって飲むことは  
減ったけど集まった流れで家に  
持ち寄り飲み会



昔ほど飲まなくなったが  
新年会にはすぐ飲む

- ・月一回、お坊さんにまとめて月命日で  
まわってもらう
- ・買い物は、かけるくん(週2回)、トドックの  
宅配(週1回) 留辺薬のスーパー
- ・タクシーを乗り合わせて買い物へ行く



月命日はみんな一緒

毎月1日の午前中、留辺薬からくる  
お坊さんが各家庭をまわる

勝山地区にゆかりのあるお坊さん  
心配な家庭の情報がかかることもある

健康  
づくり

置戸町勝山地区協議会  
2025.12.1

多世代交流

置戸町勝山地区協議会  
2025.12.1

昔の体育協会の取り組みが  
現在の運動習慣につながる

散歩、いきいき100歳体操、リズム体操、  
命の貯蓄体操、パークゴルフ、  
歩くスキー、畑作業(さつまいもづくり)

ここ数年、気候が変わり、  
さつまいもが育つようになった  
さつまいもを栽培する人はまだまだ少ない

散歩の習慣

体育協会の  
取り組み



さつまいもづくり  
とれた芋で、  
公民館に集まっ  
て干し芋づくり

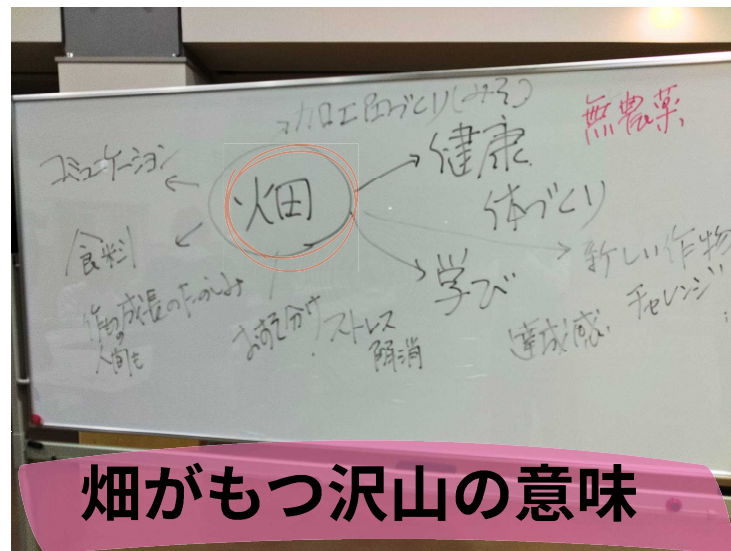


- ・ふれあい農園で子育て世代のお母さんが  
お年寄りから野菜づくりを教えてもらう
- ・ふれあい農園は外から人がくる。農業法人の仕事で  
勝山にくる若い人が  
やっている
- ・盆踊り大会で流しお菓子
- ・小学生とおやつ作り(今はない)

農業振興係の取り組み。  
移住してきた子育て世代の  
お母さんや外部の人に野菜の  
育て方を教えてくれる  
畑の師匠がいる



自宅前に畑がある人が殆ど  
それは別にふれあい農園を借りている人もいる



## 畑がもつ沢山の意味

見守り  
気に掛け合い

- ・カーテン、郵便物、ストーブの煙でお互  
いに見守りをしている。
- ・国勢調査、町内会回覧板
- ・電話をかける ・集まりに参加
- ・散歩のついでに声をかける
- ・畑作業をしているか

ストーブの煙で  
安否確認  
家同士が離れているから  
カーテンや明かりでは  
安否はわからない  
薪ストーブの  
家が多い



置戸町勝山地区協議会  
2025.12.1

# 座談会での気づきを得たこと

すいません、人集めまで  
やってもらってしまって…

感動した！

またやろう。次はもっと  
人を集められる

いや、楽しいな！  
酒飲みたいな！

気づきを得たこと



## 畑の意味、たくさんある

健康づくり、生きがいがづくり、  
学び、見守り、コミュニケーション、  
ストレス解消、多世代交流、外部との交流



置戸町勝山地区座談会  
2025.12.1

気づきを得たこと



## 住民の底力がある

- ・住民同士のつながりの強さ、見守り体制
- ・住民同士の助け合い、支え合いがある
- ・今回の座談会の周知、人集めは住民さんが主体的に動いた

置戸町勝山地区座談会  
2025.12.1

気づきを得たこと

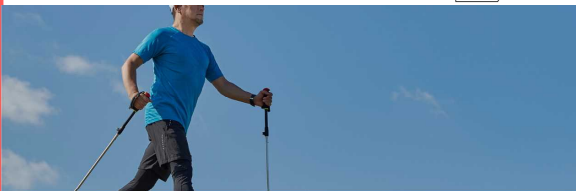
## 話をまるごと聞くことの大切さ

- ・聞きたいことを簡潔に聞くのではない。
- ・雑談に宝がある
- ・普段の暮らしに注目する。→何気なくやっていることに意味があると認めていく
- ・地域の底力を再確認→「またやろう。次はもっと人を集められる」という意気込みがある



置戸町勝山地区座談会  
2025.12.1

気づきを得たこと



## 昔の取り組みが習慣に

- ・体育協会の取り組みが現在の散歩の習慣につながる
- ・自主的に体操をする集まりがある



置戸町勝山地区座談会  
2025.12.1

気づきを得たこと

## けっこう忙しい90歳、80歳代もいる

- ・一週間、予定がぎっしり、でも楽しそう
- ・趣味のパークゴルフにきたついでに、トイレ掃除の仕事もする
- ・勝山地区だけでなく置戸地区の集まりにもいく

- ・自治連、小学校の地域参観、民協の集まり、町内会、等々

置戸町勝山地区座談会  
2025.12.1

気づきを得たこと



## 今までは 課題解決型の話の聞き方だった

- ・住民さんの話を聞くと、じゃあどうしたいのかな、どうしたらいいかな、と考える。
- ・とりあえず、上に伝えます、検討します、と答える。
- ・一問一答
- ・こちらが聞きたい話を聞く。

置戸町勝山地区座談会  
2025.12.1

## 2.5 ミーティング

座談会での気づきと学び

他の部署とも共有したい

特に畑がもつ沢山の意味

福祉系以外の部署の職員と  
勝山地区について  
話をして  
情報を得る機会を作る

# 始動

来てくれるん  
だろうか…

忙しそうだし…

何て声かけたら  
いいんだろう？



**所長**

まず、私が課長たちに声をかけて  
きますから、その後に来てほしい  
職員に声をかけてみて下さい

呼んだ係

防災係、企画係、水道管  
理係、医療給付係、  
農業振興係、図書館、社  
会教育係、社会福祉係  
地域おこし協力隊

# 地域づくり 加速化事業 三回目現地支援



国の事業だよ！  
職員大集合！

課長補佐、係長、係員と役職も様々  
職員各々に勝山地区との関わり方があり、  
勝山地区に対する思いがありました。  
役場職員としてだけでなく、1人の町民としての  
思いも話してくれました。



アドバイザー橋本さん



支援チームとの打ち合わせ



# 違う視点から見た 勝山地区

## 地域の底力

- ・一旦リーダーに相談、それから役場  
→役場への相談が他の地区より少ない
- ・防災意識が強い→いち早く防災自主組織が立ち上がり毎年住民主体の防災訓練を行う。消防団加入者多い。
- ・住民同士のつながりが強い。町外へ引っ越し時、自分たちでやるから引っ越し業者を呼ぶなといわれた。
- ・外から来る人を受け入れるのが上手

## 地域に対する危機感

- ・今いる地区のリーダーの後継者がいない
- ・リーダーを支える若手はいるが、今後は？
- ・空き家の増加、中心部の空洞化
- ・いつの間にか空き地にソーラーパネル
- ・下水道の整備、浄化槽への転換
- ・災害の時、助けてくれる若手が不足  
見捨てられたくないという思いが強い地区

## 地域への愛着

- ・勝山地区生まれ。今は違う地区にいるが「勝山愛」は変わらない。
- ・自分の地区を誇りに思う人が多い。
- ・受け入れられると温かい、逆だと住むのは厳しい。
- ・昔話をする人が多い。変化を望まない。
- ・お酒がコミュニケーションツール。

## 意外という若い人

- ・地区に居住していないが農業法人に若い人たちが集まりはじめている。従業員も多い。地区の除雪、盆踊り大会の手伝いもする。消防団にも加入。
- ・関係人口の増加
- ・山神太鼓に役場な若手と職員たちの子ども練習場所が勝山

## 次世代を担う 若手との関係

- ・開町100周年に野外音楽フェスをやりたいと言った若手、止めた年配者、背中を押した年配者はいずれも勝山地区住民  
野外音楽フェスは開催された
- ・年配者と若手の対立。それだけ若手が力をつけてきた。
- ・世代間ギャップが大きい。



## 熊は身近にいるもの

- ・今年ヒグマの捕獲50頭。今年は異常に多い。
- ・自宅近くに熊はいた。通学帰りにいた。
- ・危ないとは思って適度な距離感をつ。あ、熊いる、って感じ。

## 既に出ていた つながる、知る、生まれる

- ・置戸町は社会教育の町。戦後間もなく各地区公民館に社会教育主事を配置。
- ・公民館がまちづくりの中心。住民との話し合いが盛んだった。
- ・他の町からは、それは農政、企画とかがやることではいかかと言われてきた。
- ・とりあえず集ってみよう。何か生まれるかも。何か一歩すすめばいい。その仕掛けをする。答えを出さないと、となると苦しくなる。
- ・始まりは公民館。地域を横断的にみてきた。
- ・置戸町出身、矢崎秀人さんの論文「公民館を中心とした村おこし運動にみる農村社会形成」読んでみたら？

## 勝山地区の歴史

- ・ないものは作ってしまう。
- ・行政が動くのをまっくらに。公民館の基礎工事を住民がはじめてしまった。
- ・子どもが少なく学校が成り立たないで山村留学で学校を維持、地遊人という地域おこし協力隊が始まる前から町独自の似たような制度があった。

## 地区盆踊りの開催

- ・農業法人の若い人たちが携わる
- ・流しソーメンでなく流しお菓子
- ・子どもが少ない地区。子どもを呼び込む工夫。



## 獅子舞がくる

- ・年一回町内すべての家に獅子舞がやってくる
- ・移住者は知らないで最初はびっくりする。
- ・各家庭の家の様子がわかる。

## カラオケが生きがい

- ・カラオケの集まり多数。町中の人たちもゆうゆ温泉に集まってカラオケ。
- ・カラオケの機械を操作するだけの人、歌を聞くだけの人もいる。
- ・自宅にもカラオケ設備あり。
- ・公共バス路線廃止はさておき、公民館の防音設備の充実を要望する声がある。

## 山菜は買うものではない

- ・山菜をスーパーで買ったと話したら笑われた。山菜は山でとるもの、人から貰うものと言われた。
- ・松茸もとれる。場所は年配者の秘密。

## 食のつながり

- ・農業祭で漬物品評会、あんずの加工
- ・そばの作り方教えてくれる。勝山はお湯で混ぜる。
- ・食のサロン、家庭から持ちより

# 定量的データ(数値)から地域を読み解いてみる

これらの  
データを  
読み解く

- ・ KDB:地区ごとの健康課題がみえる数値データ
- ・ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
- ・ 地区の年齢別人口、世帯構成など

定量的データ  
高齢化率50%超、単身高齢者世帯、  
高齢者夫婦世帯が多い

**だけど**  
定性的データ  
友人同士の助け合い、つながりが  
多い

つながりがあるから  
それ程困ってないよね  
今は、ね。

定性的データ  
2回目現地支援  
勝山地区で聞いた話より

住民から聞いた話  
の裏付けになった

定量的データ  
(数値)より

昔の体育協会の取り組みが  
現在の散歩の習慣につながっている。

一回あたり歩く時間が  
15分以上の人が多い

散歩をする人が多い

散歩している人  
よく見るよね

定量的データ  
検診も病院受診も  
したことない人たちがいる

**ターゲティングする**

これだけつながりが  
あっても、わからない  
人っているよね

ある日突然、入院して  
重たい介護度が  
ついてたよね。

人と関わりを持たずに  
1人で自由に暮らし  
たい人もいるよね

定量的データ(数値)と定性的データ(地域で聞いた話等々)をつけ  
合わせることで、数値を根拠にした地域の分析をすることが出来た。

# 気付きと 今後取り組みたいこと



置戸町  
HOKKAIDO  
OKHOTSK  
OKETO

## 住民主体にこだわらない

- 10:0の住民主体を求めるよりも、住民ができること、できそうなことから町ができることを見極める。
- 「準備してくれたらやる。」は主体的ととらえていいのでは。
- 「町がどうにかして」→一緒に考えるチャンスにしていく。
- 住民の主体性は見えていないだけ、出番がないだけかもしれない。

## 今まで聞いてきたことの意味付け

- 住民から聞いた日々の生活に関するエピソードについて、「見守り」「生きがいづくり」などの意味付けをしていくことで、住民が何気なくやっていることを認めていき、気付きや自信につなげたい。
- 意味付けしていく力をつけていきたい。
- 今まで行ってきた事業の振り返りと意味付けをしたい。

## 今出来ていることを大切に

- 今出来ている集まりやつながりを大切にしたい。2、3人程度の少人数の集まりでも、継続していることを認め応援していきたい。
- 出来ていないこと、衰えていることにはばかり注目せず、出来ていることに目をむけていきたい。
- 昔からある地区への愛情の強さ、他の地区に負けたくないという気持ちを地域づくりに生かしていきたい。



## 庁内連携の大切さ

- 福祉部門以外の係の取り組みについて改めて知る機会となった。
- 情報交換を通じて、町の歴史や成り立ちを共し、若手職員に伝承する場にもなった。庁内連携を持つ意味の多さを再認識した。今後も連携の機会を持ち続けたい。
- 置戸町の地域性、各地区の公民館に主事がいる、社会教育に力を入れている町であることを再認識した。置戸は社会教育の町というのがわかった。
- 図書館の司書さんの「図書館は本を読まなくてもきていい場所」という言葉の意味を再認識した。今後も集まりの開催の場以外でも連携していきたい。

## 生活支援コーディネーター(SC) の役割の再確認

- SCの成果とは何か。講演会などの事業の開催数？参加者数？集いの場の立ち上げ数？数字では示せない地域の姿に注目したい。伝えていきたい。
- 数字では示せないものを、どう表現するか、伝えるか。伝える相手によってやり方を工夫していく。
- 主任ケアマネ、保健師の他に農業分野等の仕事にも地域づくりの役割が求められており、SCだけの役割ではないかも。地域づくり、まちづくりに全く関係のない人っている？
- 地域を読み解いていく面白さ。話を聞くほどみえてくる
- 地域づくり加速化事業の経験が気付きと自信につながった。
- 子育てエピソードを通した地域のつながりの伝え方

## 話をまるごと聞く

- 今までの話の聞き方は課題解決型だったと気がついた。住民の話をまるごと聞くことで得られるものは多いと感じた。
- 雑談のなかに大事なことがあった。
- こちらから聞きたいことだけを効率よくきくやり方では、聞き取れないことがあることに気がついた。
- 数値だけでは見えない地域の姿、数値から裏付けられる地域の姿があることがわかった。

主任ケアマネ、保健師の他に農業分野等の仕事にも  
地域づくりの役割が求められており、SCだけの役割では  
ないかも。地域づくり、まちづくりに全く関係の  
ない人っている？

生活支援コーディネーター(SC)という名前がついていなくても、  
職場や地域には、誰かのために動いたり、人と人をつないだり  
地域づくりに取り組むSC的役割を果たす人たちがいる。

その人たちがつながっていくことで、地域の様々な姿を知る  
ことができ、今までとは違った広がり生まれるのでは。

まちづくりはひとづくり



つながる、知る、生まれる

# 地域づくり加速事業 その後



置戸町  
HOKKAIDO  
OKHOTSK  
OKETO

## 住民との対話 の継続

- 地区ごとの座談会の開催(次年度)
- ヘルス部門の健康推進係との事業「おけとのつながり倍増計画」の継続開催
- 色々な場面での対話の継続

## 他部署との連携 (庁内連携)

- 各係が聞いた地域住民の話を役場全体で共有したほうがいいのでは、地域の暮らしについて住民と話す機会を連携しながら継続したいとの意見が福祉係他部署以外からでてきた。

## 社会教育、図書館との連携

- 図書館にある昔の地図を活用した座談会(案)
- ヤングケアラー文学作家×福祉のコラボイベント(案)
- 図書館での集まりの開催(オレンジカフェなど)

## お隣の訓子府町の協議体 グループとの交流会の開催

- 置戸町立図書館で開催。お弁当付き。
- となり町との交流は盛り上がり、次回開催を希望する声あり。
- 自分の町のいいところを再確認する機会になる。

## 他市町村SCとの交流

- オホーツク振興局主催のSC交流会が置戸町で開催された
- 他市町村の状況を知ることができた。悩みを共有することができた。
- 近隣市町村の取り組みを知るために視察研修を計画中

## 勝山地区との関わり

- 地区のお食事会(ふれあい昼食会)で2回目現地支援の勝山地区座談会について伝える機会をいただいた。(住民約40名参加)。
- 2回目の地区座談会開催予定

座談会  
アドバイザー 橋本 泰典 氏  
(全国コミュニティライフサポートセンター)

十年先も  
残したい  
置戸の  
いいところ

「これまで聞いてきたつなぐ、新しいつなぐを、世代や地域を越えたつなぐを再確認！置戸のこれからの暮らしについて、お話しを聞くに話してみませんか？」

事前申込みを  
いただけると  
助かります！

日時 **3月19日(木)**  
時間 13:30~15:30  
場所 置戸町中央公民館 多目的研修ホール  
申し込みは地域福祉センター包括支援係 52-3333まで



**支援チームの皆様  
伴走していただき  
ありがとうございました**

令和8年3月4日(水)

# 令和7年度 地域づくり加速化事業

北海道保健福祉部 福祉局 高齢者保健福祉課



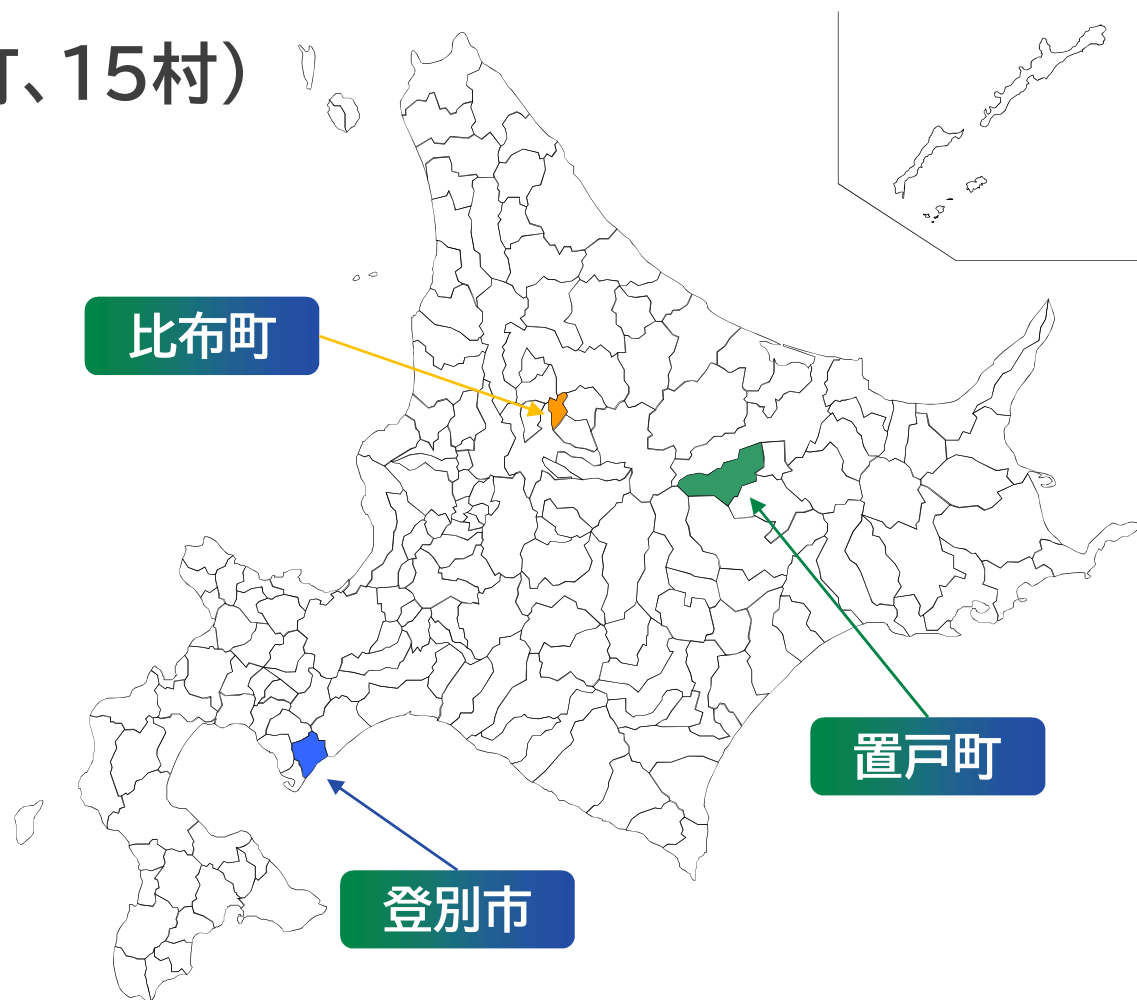
➤ 市町村数  
179市町村（35市、129町、15村）

➤ 人口  
5,044,825人

➤ 65歳以上人口  
1,664,663人

➤ 高齢化率  
33.0%

➤ 要介護(要支援)認定率  
21.3%

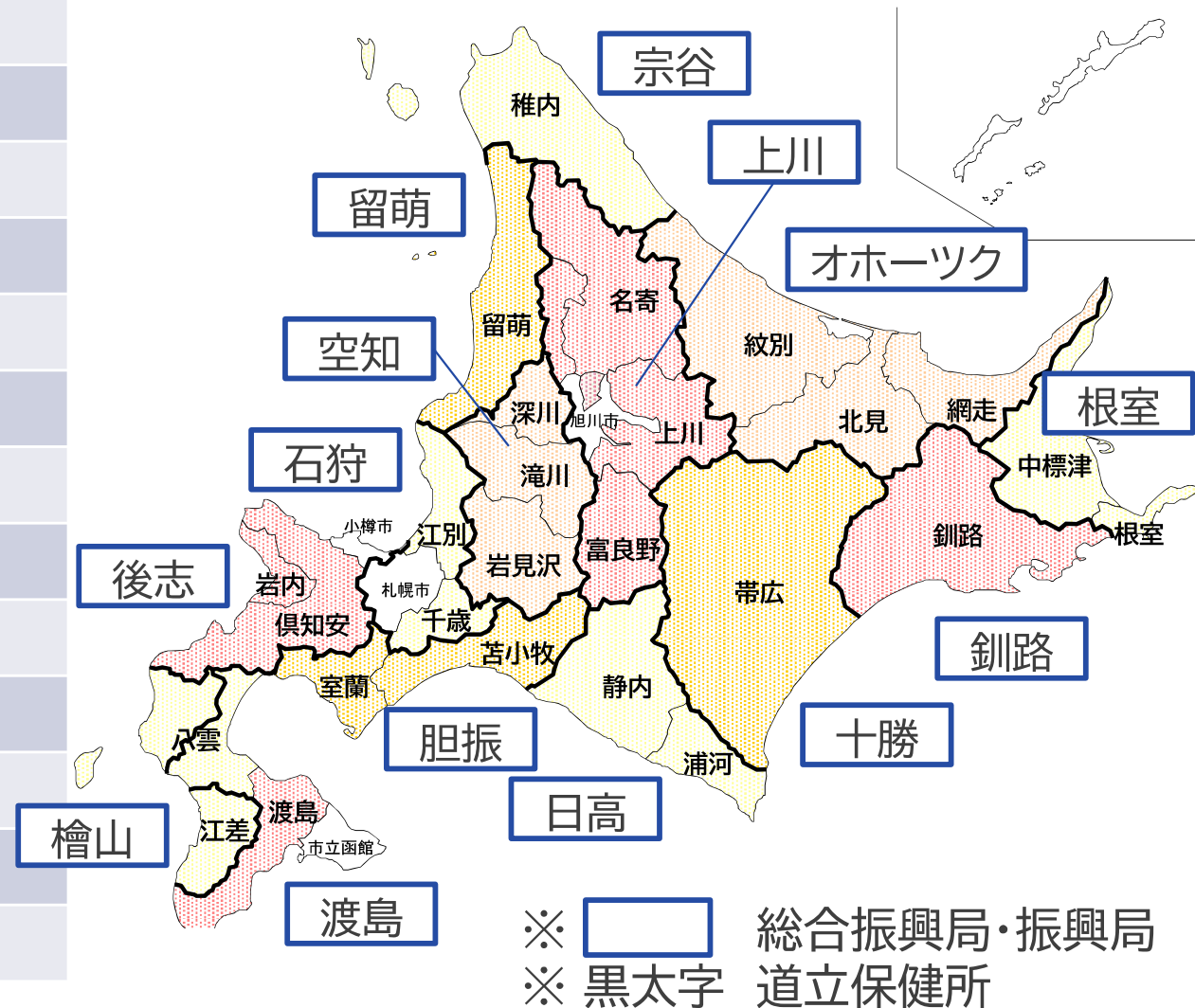


※ 人口・65歳以上人口・高齢化率（令和7年1月1日現在）

※ 要介護認定率（令和6年3月31日現在）

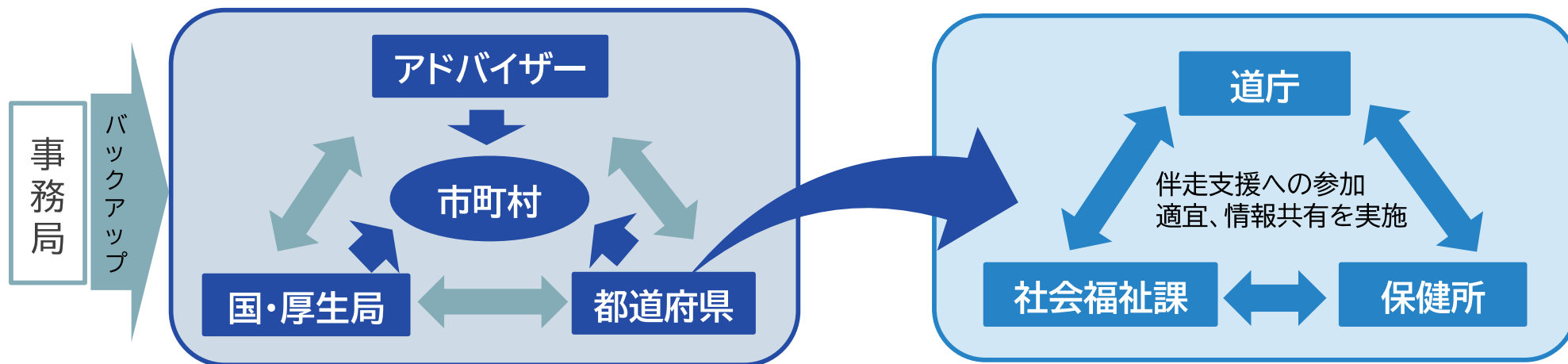
振興局 (社会福祉課)	道立保健所	市町村数
空知	岩見沢・滝川・深川	24
石狩	江別・千歳	8
後志	倶知安・岩内	20
胆振	室蘭・苫小牧	11
日高	浦河・静内	7
渡島	渡島・八雲	11
檜山	江差	7
上川	上川・名寄・富良野	23
留萌	留萌	8
宗谷	稚内	10
オホーツク	網走・北見・紋別	18
十勝	帯広	19
釧路	釧路	8
根室	根室・中標津	5

- 道庁(高齢者保健福祉課)
- 総合振興局・振興局 14か所
- 道立保健所 26か所



# ➤ 地域づくり加速化事業支援チーム

※「地域づくり加速化事業オリエンテーション資料」を参考に作成



市町村	アドバイザー	北海道			北海道 厚生局	厚生労 働省
		本庁	(総合) 振興局	保健所		
登別市	北海道教育大学 教育学部函館校 齋藤教授	2人	1人 (胆振)	1人 (室蘭)	2人	—
比布町	一般社団法人 Wellbe Design 篠原理事長	2人	2人 (上川)	2人 (上川)	2人	—
置戸町	全国コミュニティライ フサポートセンター 橋本参事	2人	1人 (オホーツク)	—	2人	3人



## ➤ 伴走支援にあたり心がけたこと

- 北海道としての支援チームをつくる(道庁・社会福祉課・道立保健所)
- 支援チーム(AD、北海道厚生局、厚生労働省、事務局)との関係構築を大切に
- 市町村担当者の思いや困りごと、取り組みたいことを随時確認、市町村の意思決定を尊重

## ➤ 北海道が担った役割

- < 支援の間 >
- 個別に支援町を訪問し、担当者の意向を確認(社会福祉課)
- < 現地支援当日 >
- 全体進行
  - グループワークの進行や板書等

## 現地に出向いた、顔の見える関係

- 住民や役場関係者との意見交換など、現場での空気感を共有
- ミーティング、現地支援を重ねるごとに、市町村と支援チームの関係性が構築

## 「持っている力」「できていること」にも目を向ける

- 課題やできていないことばかりを見ない
- 今できている力、地域の助け合い(互助)を壊さない視点と関わり方
- 「こうなりたい」「こうなればいいな」を語り合う

## 庁内連携、関係機関連携のための関わり

- 庁内連携の構築に困っている市町村は多い
- 加速化事業を上手に使う 「厚生局が言っているから」「北海道が言っているから」
- 支援チームが市町村担当者の意見を代弁、後押し

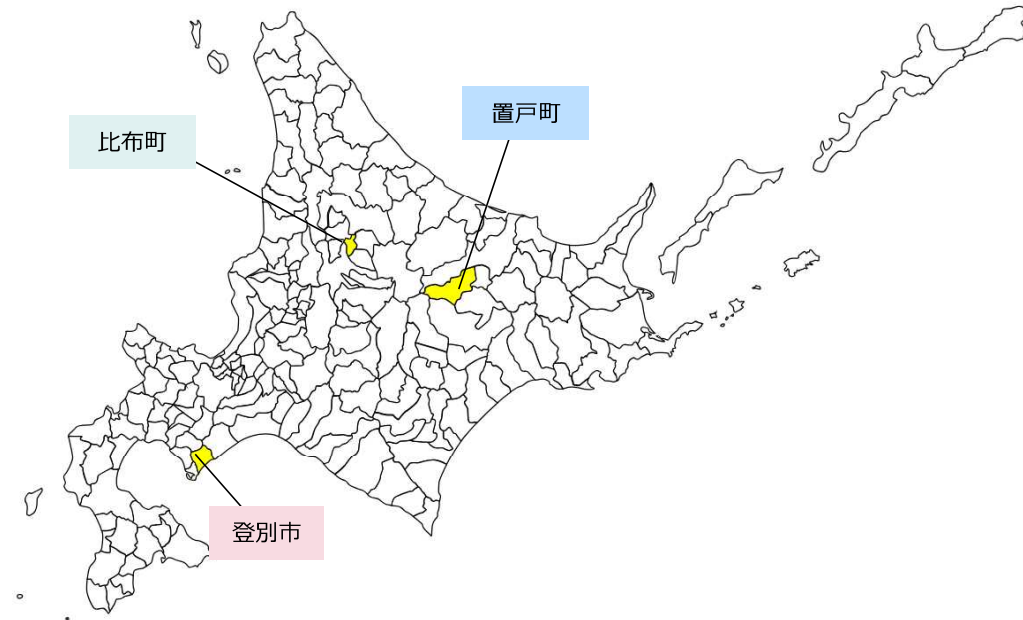
## 【本事業の横展開】

- 全道を対象とした研修会で取組のプロセスや成果を周知
- 圏域市町村等を対象とした意見交換会で情報共有 など

## 【北海道による市町村支援の実施】

- 各事業におけるアドバイザー派遣
  - 自立支援型地域ケア会議の立ち上げや、既存の会議における具体的な運営方法など、市町村の課題に応じた支援を実施
  - 総合事業や生活支援体制整備の取組に関する助言、地域住民や関係機関等との協働促進のための研修会の講師を派遣
- シルバーリハビリ体操を用いた住民主体の自主グループ育成支援
- 社会福祉課や道立保健所における市町村支援





## 地域づくり加速化事業について

北海道厚生局 健康福祉部

地域包括ケア推進課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

# 支援の経過

## 登別市（厚生局主導型）

### ・9/8 現地支援 1回目

・AM = 市社協の取組や地域課題を共有。市社協として市への期待や課題等を率直に意見をいただいた。



・PM = 市・社協・包括・支援チームで「各組織から見た市民が困っていると感じていること、そのために必要な取組、その取組を進めるために生活支援体制整備事業をどう活用するか」等をテーマにグループワーク

➡市社協で独自に実施している活動（生活支援体制整備事業にあたるような活動も踏まえ、市としてどう事業デザインをしていくか、市全体としての課題についてどう取り組んでいくかを市として整理の上、関係機関とも意見交換しながら検討していく。

### ・12/8 現地支援 2回目

・生活支援体制整備事業の事業デザインとして、ロジックモデルを作成した。（市作成のものをたたき台にして、市・社協・包括・支援チームでブラッシュアップ）

➡途中で時間切れになってしまい、次回の現地支援で続きを作成することにした。

この間、市・社協・包括が自主的に集まり、ロジックモデルの続き（初期アウトカム）を作成

### ・2/12 現地支援 3回目

・ロジックモデルのブラッシュアップ、具体的な取組の洗い出し、取組の優先順位づけ（いつまでに、だれが、何をやる）

➡市・社協・包括での目線合わせや次年度以降も定期的に意見交換をしていくことになった。

## 比布町（厚生局主導型）

### ・9/11 現地支援 1回目

◎三平サロン



・AM = 町内の視察（サロン見学等）

・PM = 生活支援体制整備事業の方向性について、町の現状・課題より何が必要なのか整理・分析、行政として事業の方向性について町・支援チームで検討

➡町の気づき：身近にあるものはどれも社会資源。施設は全体的に新しく、人が集まれそうな場所が多いこと。個々の高齢者と社会資源とを結びつけることを通じて、生活体制をコーディネートすることもできる。

SCが高齢者と社会資源を結びつける（生活体制の整備）  
➡ 高齢者の活動量UP ➡ 介護予防の促進

### ・11/12 現地支援 2回目

・AM = 町の高齢者の状態像の分析（KDBデータを利用）

・PM = 比布町の生活支援体制整備事業のイメージの構築（把握した高齢者の実態を基に、どんな状態の、誰に対し、何をやるかの整理）

➡支援の最終目標として、高齢者の生活を支えるための受け皿となる町の取組を図式化（住民にも町職員にも分かりやすく見える化）し、協議体・SCも交えてブラッシュアップする。

### ・12/24 現地支援 3回目

・生活支援体制整備事業の協議体メンバーを参集し、ADからの講和、地域の社会資源の洗い出し。

➡「高齢者の生活を支えるための受け皿となる町の取組の図式」（資源リスト）のベースを作成。

# 支援の経過

## 置戸町（都道府県主導型）

### ・10/29 現地支援 1回目

- ・ AM = これまでの置戸町の取組の共有と整理
- ・ PM = 町の強みや役場で把握している住民の困りごとの共有



→ 町民同士のつながりが強い。イベントも多い。置戸町の既存のつながりを活用し、エリアを絞って、住民の声を拾い新たな取組につなげる過程を町に体験してもらう。対象エリアについては町で検討。

### ・12/1 現地支援 2回目

- ・ AM = 午後に向けた戦略会議
- ・ PM = 住民・役場職員・支援チームを交えて座談会

→ 置戸町の中でも過疎化が著しい勝山地区の住民（12名）を交えて普段の暮らしぶりや想いを聞かせていただき、役場職員からは何気ない住民同士の繋がりに目を向ける重要性に気付いたなど、好意的な意見が多数あった。

### ・1/21 現地支援 3回目

- ・ AM = 他部門の役場職員を交えてグループワーク
- ・ PM = 第2回の座談会で聞いた定性的な内容と、定量的なデータの実合、支援の振り返り

→ AMのグループワークでは、勝山地区に住んでいる、住んだことがある、業務でかかわっている職員を交え、勝山地区について知っていることを共有。PMは様々なデータと座談会で聞いた住民の話しをかけあわせ、データの裏付けを行い、次年度以降の体制整備事業の進め方について話し合いを行った。

## 各支援を通じた所感

### 登別市

・ 市・社協・包括の三者で自主的に集まり、話し合いとロジックモデルを作成したのは素晴らしいこと。自走に向けて大きな一歩になった。

### 比布町

・ 町では生活支援体制整備事業で具体的に何をしていくか不明確で、委託先の思いと町の考えのすり合わせができていなかったが、現地支援を通じ生活支援体制整備事業に対する理解が深まったことにより、今後の事業の進め方や委託先との役割分担など、R8年度以降の事業の方向性を固めることができた。

### 置戸町

・ 実際に地区（今回は勝山地区）に入り込み、住民の暮らしぶりや何気ない日常のお話を聞き、その地域のことを深く知り理解することを通じて、現状把握・地域アセスメントを行い、新たな取組につなげる過程を体感できたこと、今後は他部署との連携やデータも活用しつつ、住民を巻き込んだ活動につなげていく。

関係者を巻き込んだ「対話」が重要です！

どのように関係者を巻き込むか（きっかけ）



「国の職員が来るから、道の職員が来るから・・・」  
これ以上ない便利な「言い訳」です。



加速化事業をご活用いただき、関係者との  
連携の「きっかけづくり」にお役立てください！